

試験日 ： 2026 年 2 月 21 日（土）

入試種別 ： 再入学試験

学部・研究科： 社会学部 社会学科

科目名 ： 学科試験

解答又は解答例

1

A 群・B 群・C 群からそれぞれ 1 つを選び、その定義と具体例を 200 字程度で説明する設問である。下記は各群から 1 語を選んだ場合の解答例であり、いずれの用語を選択した場合も、当該用語の定義が正確に示され、適切な具体例が伴っていればよい。なお、問題要旨では用語一覧に番号が付されていないため、下記では選択した用語名を冒頭に示す。

（1）社会規範

社会規範とは、ある社会や集団の成員が共有し、行動の基準として期待される決まりや価値のことである。法律のように明文化されたものだけでなく、慣習やマナーのように暗黙のものも含まれる。人々が社会規範に従うことで社会秩序が保たれる一方、規範に反すると非難や制裁を受けることもある。具体例として、電車内で大声で話さない、列に並んで順番を待つ、葬儀では喪服を着るといった振る舞いが挙げられる。

（2）少子高齢化

少子高齢化とは、出生率の低下によって子どもの数が減る少子化と、平均寿命の伸長などによって高齢者の割合が高まる高齢化とが同時に進行する人口構造の変化を指す。高齢者を支える現役世代が減少するため、社会保障、医療、介護、労働力、地域社会の維持などに影響を及ぼす。具体例として、日本では年金・医療・介護の費用負担の増大、地方の過疎化、地域の担い手不足などが問題となっている。

（3）フィールドワーク（現地調査）

フィールドワーク（現地調査）とは、調査者が研究対象となる地域や集団のもとに自ら出向き、一定期間その場に身を置いて、観察や聞き取りを行いながらデータを集める調査方法である。資料や数値だけでは把握しにくい人々の生活実態や意味づけを、現場の文脈に即して理解できる点に特徴がある。具体例として、商店街に通って店主や利用者の関係を観察したり、地域の祭りに参加しながら住民に聞き取りを行ったりする調査が挙げられる。

本問は、近年の日本社会における事象を1つ取り上げ、それを個人の問題ではなく社会の問題として捉える理由と、社会学的に考えることで得られる視点を論じる設問である。解答が一義的ではないため、以下を採点又は評価のポイントとする。

○ 事象の設定

近年の日本社会において「社会の問題として捉える必要がある」と考える事象が、具体的に設定されているか。たとえば、孤立・孤独、ひきこもり、長時間労働・過労、いじめ、子どもの貧困、ヤングケアラー、非正規雇用の増加、地方の過疎化、少子高齢化、ジェンダー不平等、外国人住民との共生、教育格差、SNS上の誹謗中傷など、近年の日本社会に関わる事象を明確に取り上げていることが望ましい。

○ 個人の問題ではなく社会の問題として捉える理由

その事象を、単なる個人の努力不足、性格、能力、選択の問題として説明するのではなく、社会構造、制度、規範、経済状況、家族、学校、職場、地域社会などとの関係から捉えているか。個人の責任の有無を単純に否定するのではなく、個人の選択や困難がどのような制度的・構造的条件のもとで生じているのかを説明し、社会的に対応しうる点を考察していることが望ましい。

○ 社会学的に考えることで得られる視点

社会学的に考えることで、個人の経験を社会構造や制度との関係で捉え直す視点、当事者を非難するのではなく問題の生じる仕組みに目を向ける視点、当たり前とされている規範や制度を問い直す視点、不平等や排除のメカニズムを明らかにする視点、当事者の置かれた状況を社会的文脈の中で理解する視点などが得られることを説明しているかを評価する。

○ 論理性と具体性

単なる感想や対策の列挙にとどまらず、取り上げた事象について、具体例を示しながら筋道立てて論述しているか。因果関係を過度に断定するのではなく、どのような社会的背景や仕組みがその問題に関わっているのかを丁寧に説明していることが望ましい。また、設問の(1)と(2)が一貫した論理でつながっているかを評価する。

全体として、取り上げた事象を一面的に捉えるのではなく、個人の問題から社会の問題へと捉え直す視点を、社会的な概念や考え方をを用いて具体的かつ一貫して示せている答案を高く評価する。